

田村病院ニュース



| | |
|----------|------------|
| 発行日 | 平成30年3月20日 |
| 田村病院ニュース | 第133号 |
| 発行責任者 | 木下定子 |
| 編集責任者 | 浦田雅弘 |

随分と春らしくなってきました。3月上旬には、桜の開花も和歌山市では3月20日と予想が出ています。開花から1週間もすると満開を迎え、和歌山城や根来寺など桜の名所では大勢の人でにぎわいます。暖かくなってくると出かけやすくなりますが、一方ではスギやヒノキの花粉の飛散が多く、花粉症の方にはつらい時期でもあります。対策はしっかりと行い、春を楽しんでください。

風土

和歌山県は日本最大の半島、紀伊半島の西側に位置し、南部の方では大規模な紀伊山地が海岸近くまで迫り、大きい河川では紀の川以外は山間部を蛇行しながら流れています。また太平洋に面しており黒潮の影響を受け、その土地土地の風土を形成しています。

当院は和歌山市東部に位置し、紀の川流域のその風土のなかで皆さんと一緒に成長してきました。風土と言えばその土地柄であったり地域性であったり生活環境をすぐ連想してしまいましたが、今月は小島外来部長より「組織の風土」というお話がありました。

「組織風土」と似たような意味で使われる言葉に「組織文化」があります。これは共通の考え方であったり、理念、コミュニケーションによって意識的に作り上げられるものです。一方、組織風土は思想や理念、企業文化の有無にかかわらず、すべての企業に存在します。

この組織風土は目に見えないものですが、スタッフのモチベーション・行動スタイル・生産性に大きな影響を与えています。ではこの組織風土を変えるのには何が必要でしょうか？組織風土は職員一人一人の意識の集約です。職員全員が“病院のスタンダード”をどこの置くかを認識しておく必要があります、これは「エ



ビデンスに基づく専門性、安全、安心、信頼される的確な医療の提供」にあります。当院を利用してくれる皆様から安全・安心・信頼される病院である組織風土、文化を職員一人一人が「源」となり作り上げていきましょう。」といった内容のお話でした。

“組織風土”はハード的要素とソフト的要素があり、前者は企業理念や組織構成、就業規則などの形としてとらえられるもの、後者は社内でのローカルルールや信頼関係、人間関係など目には見えにくい部分が多く、その中でも心理的感情に大きな影響を受けるメンタル的要素を見逃さないことも重要と書かれていました。

個人的価値観や理想は組織風土ではなく、全職員が物事に対して必要性や正当性という観点から同じ基準や価値観を共有した状態で時間を掛けながら組織風土を定着させいくものです。“病院のスタンダード”を念頭に置き、皆様に安心して利用していただける病院ブランドを築き上げられたらと思います。

病院掲示板

**梅の花が終わるとすぐ桜の季節となり、院内の桜も3月末には満開になると
思います。こうなると春も本番を迎え、院内もだんだんと緑に覆われてきます。**

**さて、3月と言えば忘れてはならないのが東日本大震災です。あれからもう7
年がたちますが未だ行方不明者が多数います。私たちはあの痛ましい震災を決
して忘れることなく、近年必ず起こるとされている南海トラフの大地震に備え
てしっかりと準備をしておかなければなりません。**

**平成に入り、阪神淡路、熊本の直下型大地震、東日本のプレート型大地震で体
験したその轍を踏まないために、次の災害に対する準備を怠らないようにしま
しょう。**
=災害対策委員会=

=編集後記=

私が担当してから7年余りとなりますが、今月号をもちまして「田村病院ニュース」を終了させていただきます。「田村病院ニュース」を読んでくださった皆様、ご協力して下さった皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

今後は新しい形として病院の情報を発信していけるとと思います。引き続きよろしくお願
い致します。



=うらた=

